

第 20 章 皮膚に作用する薬物(皮膚用薬)

20.1 皮膚用薬

皮膚用薬とは表皮並びにその内側の真皮に作用する薬をいう。主に外用薬として用いられ、脂溶性薬物は皮脂腺を経由して浸透する。

20.1.1 角化症治療薬

角化症：本来、角化とは外からの刺激を守るため角質層が厚くなる皮膚の防御反応であるが、角化の異常亢進により厚くなりすぎたり、水分が行き渡らなくなり亀裂が入ったりする症状。

薬物名	特徴
タカルシロール(活性型 V.D ₃)	表皮細胞増殖抑制作用・分化誘導作用 ※骨粗しょう症の適応はない <適応> 乾癬、魚鱗癬など
尿素	角質の水分保持量増加作用・角質溶解剥離作用

20.1.2 褥瘡・皮膚潰瘍(床ずれ)治療薬

褥瘡・皮膚潰瘍：常に同じ姿勢で寝ているため、骨の突出している箇所の皮膚がベッドとの間で押しつぶされ、血流が停止して細胞が壊死してしまう症状。

薬物名	特徴
リゾチーム(消炎酵素)	線維芽細胞の増殖促進作用・創傷治癒促進作用
トレチノイントコフェリル	V.A と V.E のエステル 線維芽細胞の増殖促進作用・肉芽形成作用
アルプロスタジル アルファデクス(PGE ₂ 誘導体)	血流改善作用、肉芽・表皮形成作用
トラフェルミン	ヒト由来塩基性線維芽細胞成長因子(FGF)遺伝子組換え製剤 FGF 受容体に作用し、血管新生・肉芽形成促進作用

20.1.3 尋常性白斑治療薬

尋常性白斑：メラニン色素を作る細胞が消失するために、皮膚の色が抜けて白くなる。

メキサレン

- ・光線感受性増強作用により患部にメラニン色素沈着を起こす

20.1.4 抗病原微生物薬

- ・抗真菌薬(クロコナゾール、イトラコナゾール、テルビナフィン) <適応> 白癬
- ・抗カンジダ薬(クロトリマゾール、ミコナゾール) <適応> 皮膚カンジダ症・白癬
- ・抗ウイルス薬(アシクロビル、ピダラビン) <適応> 帯状疱疹・単純疱疹